

政治・経済定点観測レポート

ウズベキスタン NOW

【第 16 号:2011 年4月－5月期】

* 本レポートは ROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

経済概況

2011 年第 1 四半期のウズベキスタンの GDP 成長率は 7.6%

内訳は、鉱工業生産高の成長率が 6.2%で、そのうち消費財が 10.3%。農業が 5.8%、小売りが 13.1%、サービスが 12.6%であった。輸出は 28.5%増加し、貿易収支は黒字が確保された。国家予算の執行状況は歳入が歳出を上回り、その超過額は GDP の 0.3%を上回った。インフレ率は予測レベル 2.7%を超えなかった。

2011 年第 1 四半期のウズベキスタンの貿易高が 57 億 1,800 万ドル

貿易高の伸び率は前年同期比 32.3%であった。このうち CIS 諸国との貿易高は 22 億 2,800 万ドル、そのほかの諸国との貿易高は 34 億 9,000 万ドルであった。貿易高総額のうち 34 億 7,100 万ドル（伸び率 28.5%）を輸出が占め、輸入は 22 億 4,700 万ドル（伸び率 38.7%）であった。CIS 諸国向け輸出は 67.1%増加して 12 億 8,300 万ドルとなり、そのほかの諸国向けの輸出は 13.2%増加して 21 億 8,800 万ドルとなった。CIS 諸国からの輸入高は 9 億 4,440 万ドルとなり、前年同期比 49.6%の増加であった。そのほかの諸国からの輸入も 31.7%伸びて 13 億 300 万ドルとなった。

アジア開発銀行（ADB）の専門家たちがウズベキスタンの 2011 年の GDP 成長率予測を 9 月時点の予測から 0.5%下方修正

ADB の新しい報告書「アジア発展の展望 2011」では、ウズベキスタンの GDP が今年（2011 年）は 8.5%（前回の「展望」では 9%程度と指摘）、2012 年は 8.4%それぞれ増加するであろうと指摘されている。GDP の伸びは主に鉱工業部門とサービスセクターの発展によってもたらされるが、各種のインフラ整備事業が推進されることによって GDP に占める投資の比率が急伸する、と ADB の専門家たちはみている。また、ADB の予測では、ウズベキスタンのインフレ率が今年（2011 年）は 8.8%（前回の予測では 9.5%程度）、2012 年は 8.5%になる。

世界銀行の予測では、ウズベキスタンの GDP 成長率は 2011 年が 7.3%、2012 年が 8.3%である。欧州復興開発銀行は 2011 年のウズベキスタンの経済成長率の予測を 8.5%とし

て従来のまま据え置いている。国連の「世界の景気と見通し、2011 年」報告資料では、ウズベキスタンの GDP は 2011 年に 7%、2012 年には 8%程度、それぞれ増加すると予測されている。

ウズベキスタン国家統計委員会のデータによると、ウズベキスタンの GDP 成長率は 2008 年が 9%、2009 年が 8.1%、2010 年が 8.5%であった。

二カ国関係

ウズベキスタンと中国が戦略物資売買政府間協定を 2020 年まで延期することで合意

中国は、綿花、天然ガス、ウラン精鉱、非鉄金属、レアメタル・レアアース、化学肥料のような戦略物資の調達を今後も拡大することに関心を寄せている。

2011 年 5 月 17 日から 18 日までウズベキスタンのカリモフ大統領がインドを公式訪問

この訪問の中で、燃料エネルギー、IT、繊維、製薬、金融、貿易の各分野での経済協力・投資協力を推進することを趣旨とする一連の文書が調印された。ちなみに 2010 年の両国間の貿易高は前年比 20.5%伸び、1 億 5,070 万ドルであった。このうちインドへの輸出は 2,720 万ドル、インドからの輸入は 1 億 2,350 万ドルであった。

投資政策

ウズベキスタンと中国が総額 50 億ドルに及ぶ各種投資プロジェクトを実施することで合意

ウズベキスタンのカリモフ大統領が中国を訪問し、その結果、ウズベキスタンと中国の間で 25 の国家間、政府間、省庁間文書が締結された。例えば、中国人民銀行とウズベキスタン中央銀行がスムと人民元の通貨スワップ協定を締結した。これは両国間の投資・貿易分野での協力の可能性を大幅に拡大するものである。協定総額は 7 億人民元（約 1 億 600 万ドル）

この訪問の中で、化学工業、石油化学工業、エネルギー、輸送その他の分野でのいくつかの大型投資プロジェクト実施協定が調印された。また、「ウズベキスタン—中国」ガスパイプライン第 3 ルートの建設に関する協定が調印された。これによって同パイプラインのガス輸送能力は年間 250 億 m³に増強されることになる。

中国輸出入銀行と国家開発銀行（中国）もまた両国間の各種共同投資プロジェクトに融資する用意があることを確認し、今回の訪問の結果これらのプロジェクトの実施に向けてウズベキスタンの 4 つの銀行に総額 15 億ドルの信用供与枠を新たに設定したと発表した。

エネルギー・セクター

ウズベキスタンが炭化水素資源の埋蔵量を増やし、2020 年までにガスを 25%、石油を 65%、コンデンセートを 33%それぞれ上積みすることを計画

国営持株会社ウズベクネフチェガスが策定した「2020 年までのウズベキスタンの石油ガス部門発展コンセプト」にはこのような予測数値が記載されている。これによると、探査ボーリング、試掘および層序試錐掘削の年間作業量は 2.5 倍に引き上げられ、総延長 30 万 m に達するという。また、先端技術である三次元地震探査（3D）の作業量を 2010 年の 1,639km² から 2020 年までに 4,000 km² へと大幅に引き上げ、同時に従来型の二次元探査（2D）の作業量を同期間に総延長 1 万 6,851km から 1 万 5,100km に縮小する予定である。

Petrovietnam（ベトナム石油グループ）が 2011 年から 2015 年までウズベキスタン北西部のウスチュルト地区で探査活動を展開へ

2010 年 2 月、Petrovietnam と国営持株会社ウズベクネフチェガスは、ウスチュルト地区のコッソール鉱区で今後 5 年間に渡って探査活動を実施することとし、その基本原則に関する協定を締結した。この協定では、最初の 18 ヶ月間に総延長 1,200km の 2D 地震探査を実施することをはじめとして、総面積 5,500 平方 km のコッソール鉱区での探査活動の作業量が取り決められている。ウズベキスタン側は、事業実施法人として事業会社 Kossor Operating Company を設立する予定である。Petrovietnam は以前、この事業の枠内で石油ガスの探査に 3,000 万ドルを投資する用意があったとしていた。

ウズベクネフチェガスと中国企業数社が液化天然ガス（LNG）の生産・利用分野での協力推進へ

このうち、中国のグアンヘイ・インダストリ社とは液化天然ガスの生産・利用分野での協力協定がすでに締結済みである。ウズベキスタンは、3つの天然ガス高度処理・液化プラントを建設し、天然ガス販売のための物流システムを整備し、天然ガス需要家数の増加を図ることにしている。そのほか、国営持株会社ウズベクネフチェガスと CIMC Enric Holdings Ltd（中集安瑞科控股有限公司）との間で、液化天然ガス・圧縮天然ガス（L-CNG）あるいは圧縮天然ガス（CNG）を取り扱う天然ガススタンド用の設備を製造する工場の運営に関する覚書が取り交わされている。

ウズベキスタンが 2011 年から 2015 年まで電力セクターの発展に約 52 億ドルを振り向ける予定

電力会社ウズベクエネルゴの資料によると、2011 年から 2015 年までの間、電力部門で 44 の投資事業が実施される見込みである。これを分野別に見ると、火力発電所が 15、水力発電所が 9 つ、電力網が 16、その他の分野が 4 つとなっている。「電力部門優先的発展プログラム」の実施費用は総額 52 億ドルと見積もられており、そのうち新規

建設が 35 億ドル、改修が 17 億ドルとされている。費用を設備別にみると、発電設備の近代化と増強で 39 億ドル、電力網の整備で 9 億 4,000 万ドル、電力料金計算システムの近代化で 3 億 7,000 万ドルとなっている。同プログラムは約 25 億ドルに及ぶ対内投資の誘致を見込んでいる。

石炭会社「ウズベクウゴリ」が、石炭の生産量を 2011 年の 6 万 5,000 トンから 2014 年の 90 万トンまで、今後 4 年間に 13 倍以上引き上げることを計画

これらの目標数値は、公開型株式会社「シャルグンクミル」（石炭生産企業）の近代化事業を実施して、同社に最新の高生産性設備を導入することによって達成されるという。達成する予定である。計画では、2012 年に 16 万トン、2013 年に 23 万トン、2014 年—2020 年に 90 万トンの水準に達するとされている。生産された石炭の大部分は、国内の鉱工業部門が利用する見通しである。例えば、2016 年には 90 万トンのうち 26 万 5,000 トンを国内各地のセメント工場が、24 万 5 千トンを電力会社ウズベクエネルゴが、3 万トンを国有鉄道会社が、20 万トン超をその他の需要家がそれぞれ消費し、9 万トンが輸出に向けられる予定である。概算見積もりでは事業総額は 7,400 万ドルになる。この事業を実施するために中国の輸出入銀行とウズベキスタンの復興開発基金から融資を受けるほか、ウズベクエネルゴが自己資金を提供する予定になっている。

サウジアラビアの Delta Oil Company とマレーシアのペトロナス社が、スルハンダリヤ州バイスン鉱区での石油ガス鉱床開発にかかわる生産物分与協定 (PSA) を遂行するためにコンソーシアム結成協定を締結

昨年 9 月に発効した PSA の有効期間は 2045 年までとされている。専門家の評価によると、この事業の概算見積もりは、当初 6 億 6,000 万ドルとされていたが、現在 15 億ドルまで引き上げられている。この事業ではガスの生産能力が 25 億 m³ と見積もられている。ペトロナスは、この PSA に基づく事業を実施するための事業会社としてウズベキスタンに有限会社ペトロナス Carigali (Baisun) Operating Company を設立し、すでに 8,000 万ドルの自己資金を現地での 2D・3D 地震探査活動に投資している。一方、国営持株会社ウズベクネフチェガスもまた、2 億 3,500 万ドルの資金を投じて石油増産事業にサウジアラビアの Delta Oil の技術を導入し、鉱区内の鉱床の生産を長期にわたって続けられるようにすることをもくろんでいる。

ペトロナスと Delta Oil Company が、2015 年までに工費 5 億ドルでウズベキスタンのスルハンダリヤ州にガス処理プラントを建設することを計画

ガス処理プラントは、ボイスン鉱区で最大の鉱床であるガジェク鉱床を基盤にして建設され、そのガス処理能力は年間 40 億 m³ となる。事業の第 1 段階でガジェク鉱床に建設される施設は 2013 年の初めまでに操業を開始する予定である。このガス処理プラ

ントの設備能力はまた、スルハンダリヤ州での二つの事業の枠内で生産されるガスの量に基づいて算出されることになる。

丸紅が大型施設ブハラ製油所近代化事業に参加の意向

丸紅は、将来的にユーロ 3 基準をクリアする石油製品を生産し、さらにオイルシェールを精製することを目的に UDP ブハラ製油所の近代化事業へ参加することに関心を寄せている。ウズベキスタン側は丸紅から具体的な提案があれば検討する旨を表明した。両者はこの案件で今後も話し合いを続けていくことで合意した。

ウズベキスタン政府がフェルガナ製油所の近代化に 2016 年まで 2 億 500 万ドルを割り当てることを決定

同製油所ではユーロ 3 基準をクリアする石油製品を生産するための近代化が実施されるが予定である。そのほか、石油留分の水素化改質プロジェクトを実施する計画があり、これが実現すれば年間 50 万トンの石油留分の精製が可能になる。必要な資金はウズベクネフチェガスが拠出するほかウズベキスタン復興開発基金の融資によって賄われる。

自動車・輸送セクター

ウズベキスタン企業と韓国企業が、ナヴォイ自由産業経済特区での自動車用ガスボンベ生産合弁企業設立趣意書に署名

韓国の Kolon Group が 4 年間で 8,300 万ドルを投じてウズベキスタンの大都市に 50 カ所の圧縮天然ガススタンドおよび自動車用ガスボンベ製造工場を建設することについてはすでに報道されている。合弁設立事業の総額は 4,280 万ドルになり、このうち韓国側 2 社^{*1}の投資分担額は 2,140 万ドルになる。事業は 2011—2014 年に実施される。

ウズベキスタンで自動車部品を生産するウズベキスタン・韓国合弁企業、有限会社 UzErae ALTERNATOR が設立された

合弁工場は、GM Uzbekistan が生産するすべての車種を対象に年間 36 万基の発電機と 17 万台のコンプレッサーを生産する能力を備えている。韓国の ERAE Cs Ltd とウズアフトサノアト (Uzavtosanoat) 株式会社はすでに 2009 年、GM Uzbekistan が生産する自動車用のラジエーターおよび空調・換気・暖房装置を生産する合弁企業の設立に関する協定を締結している。そのほか両社は自動車用電線を生産するもう一つの合弁を運営している。

^{*1} Kolon Group および KOGAS

ウズアフトサノアトと Sungwoo Hitech Company Limited が、閉鎖型株式会社ジェネラル・モーターズ・ウズベキスタンが生産する新モデルの自動車用のプレス・溶接部品を生産する合併を新たに設立

合併企業 UZSUNGWOO の授権資本金 200 万ドルの等価額と定められた。株式持分はウズアフトサノアトと Sungwoo Hitech Company Limited の間で折半となっている。UZSUNGWOO の両株主は、2011 年 8 月 31 日までに授権資本を 1,400 万ドルまで増やす意向であり、その際持分比率は変えないとしている。

ウズアフトサノアトとドイツの MAN Truck & Bus がウズベキスタンで大型商用自動車生産工場の新規建設を開始

合併企業 JV MAN Auto-Uzbekistan は 2009 年 8 月 29 日に設立されている。設立者はウズアフトサノアト (51%) と MAN Truck & Bus AG (49%)。2011 年から 2013 年までの合併事業第一段階では、組立てショップ、塗装ショップ、試験場を建設する。年間生産能力については、二交代で MAN の牽引トラクターとシャーシ 6,000 台とし、将来的には年産 1 万台に引き上げる可能性を残す。また、自動車の販売とアフターサービスの面ではディーラーセンターとサービスセンターを建設する計画である。新工場では、将来的に MAN のトラックのキャビンと台枠を全工程に渡って製造すること、トレーラーとアタッチメントを生産するためのあらゆる工程をカバーする設備能力を備えることが見込まれている。この工場の設備能力は、この事業の枠内で長期的には年産 2 万台に引き上げられる見込みである。

エンジンを生産するウズベキスタン・米国合併企業 GM Powertrain Uzbekistan が今年 11 月に操業開始へ

この合併工場は当初、工費 5 億 2,200 万ドルが投じられて、今年 3 月に操業を開始する計画であった。この合併は、排気量 1,000cc、1,200cc、1,400cc および 1,500cc のエンジンを生産する予定である。計画では、自動車エンジンを 2012 年に 12 万 5,000 台、2013 年に 14 万 2,000 台、2014 年に 20 万 5,000 台、2015 年に 28 万 1,400 台それぞれ生産するとされている。生産されたエンジンは、ロシア、インド、ブラジルにも輸出されるが大口需要家は GM Uzbekistan となる見込みである。

ウズベキスタンがアフガニスタンでの鉄道新線建設に参画へ

ウズベキスタン国有鉄道の技術者たちは「マザーリ・シャリーフーヘラート」ルートでの鉄道新線建設事業を 3～4 年の期間で遂行することになる。昨年、ウズベキスタンの鉄道技術者たちによってアフガニスタン鉄道新線の最初の区間、ハイラートからマザーリ・シャリーフまでの区間が開通した。

それぞれ自動車用ガスポンベの生産と圧縮天然ガススタンドの建設に従事する 2 つの合弁の設立記念式典が韓国側パートナーの参加のもとに執り行われた

一方の合弁は、毎年 12 万本の自動車用ガスポンベを生産する予定であり、他方の合弁は 50 カ所の圧縮天然ガススタンドの建設と運営に携わる目的で設立された。

その他のセクター

合弁企業 WorleyParsons Uzbekistan Engineering がプレゼンテーションを開催

この合弁は、英国の WorleyParsons 社、ウズベキスタンの国立設計研究所 Uztyazhneftegazxhimproekt および公開型株式会社 UzLITIneftgaz の間で設立された。合弁は、先進的技術を導入し、外国のパートナーの参加を得、これを土台にして天然資源の高度加工を指向する新しい設計アイデアを追求・開発する。合弁はまた、石油ガス、石油化学、化学工業および電力の各部門で実施される大規模なハイテクプロジェクト向けに最適な技術的解決法を開発するほか、技術者を対象として先進的設計法の訓練を行う。

ウズベキスタン・パナマ合弁の閉鎖型株式会社エレクトロヒムザボドが、この先数年の間に多結晶シリコンと単結晶シリコンの生産を開始へ

この事業は、4 億 1,800 万ドルの投資を必要とし、実施されれば年間 5,000 トンのシリコンの生産が可能となる。現在国営株式会社ウズヒムプロムがいくつかの投資提案書を検討している。

ラトビアの Micro Dators 社がウズベキスタンにコンピューター生産工場を建設する意向

計画では、工場はナヴォイ自由産業経済特区の中に建設され、タブレットコンピューター、ノートブック、デスクトップコンピューターを生産する。工場を建設するにあたって Micro Dators は自社の技術とノウハウを提供することにしており、ウズベキスタン側パートナー各社は約 1,000 万ドルを投資する用意があるとしている。